

甲 第 号

米田 梓 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	野上 恵嗣
論文審査担当者	委員	教授	朴木 寛弥
	委員(指導教員)	教授	田中 康仁

主論文

Morphologic analysis of nonosseous talocalcaneal coalitions using 3D reconstruction

3次元再構成を用いた非骨性距踵骨癒合症の形態学的分析

Azusa Yoneda, Yasuhito Tanaka, Hiromasa Fujii, Shinji Isomoto, Kazuya Sugimoto

Foot & Ankle Orthopaedics 2021 Oct 19;6(4):1-5

論文審査の要旨

距踵骨癒合症に対する癒合部切除術について、癒合範囲が広いと成績が下がる報告があり、切除術の適応基準となっている。これらは臨床成績から得られた基準であり、対象の大部分を骨性癒合が占める。本研究は非骨性距踵骨癒合症の形態学的評価を目的に、距踵骨癒合症は踵骨関節面の面積が正常例より大きいという仮説に基づき分析された。癒合症群 20 例（対象群 20 例）の CT 画像から距骨と踵骨の 3D モデルを再構成し、踵骨の後距踵関節面の面積（SPF）、踵骨の距踵関節全体の面積（SWJ）、踵骨の癒合部の面積（SCS）を計測した。SPF と SWJ は対照群に比べて癒合症群で有意に大きく、癒合症群の（SWJ-SCS）の値と、対照群の SWJ の値に有意差は認めないことから、非骨性距踵骨癒合症の踵骨関節面の面積は正常例より大きいことが初めて示された。癒合部切除後の踵骨関節面面積は、正常足の踵骨関節面面積と同等であったことから、行っている癒合部切除術の正当性が示されたは、本研究が大変価値のある研究であると考え。公聴会での質疑では、距踵骨癒合症の実臨床での診断と治療、今後の術前評価などを踏まえた臨床的応用の側面、完全型癒合と不完全型癒合の発生や病態の違いについて質問がなされたが、すべての的確な回答が得られた。以上より、主論文の内容と公聴会での発表、および参考論文と合わせて、審査委員すべてが適と判断し、博士（医学）の学位に値する研究であると考え。

参 考 論 文

1. Women and men in orthopaedics.
Errani C, Tsukamoto S, Kido A, Yoneda A, Bondi A, Zora F, Soucacos F, Mavrogenis AF. SICOT-J. 2021 Mar 26;7:20
2. 奈良県の乳児股関節検診の現状
米田 梓, 藤井 宏真, 奥村 元昭, 磯本 慎二, 石田 由佳子, 田中 康仁.
日本小児整形外科学会雑誌 29 巻 2 号 Page248-251(2020.12)
3. 多趾症術後の内反小趾変形に対して創外固定を用いて第 5 中足骨延長矯正術を施行した 1 例
浅井 宣樹, 黒川 紘章, 米田 梓, 藤井 宏真, 谷口 晃, 山田 宏, 田中 康仁.
日本創外固定・骨延長学会雑誌 31 巻 Page107-111(2020.03)
4. 小児の足関節後方インピンジメント症候群に対する鏡視下手術
米田 梓, 磯本 慎二, 佐本 憲宏, 藤井 宏真, 田中 康仁. 日本小児整形外科学会雑誌 28 巻 1 号 Page48-51(2019.09)
5. 外側楔状骨・第 3 中足骨癒合症の 1 例
米田 梓, 高倉 義典, 勝井 龍平, 米井 辰也, 田中 康仁. 日本足の外科学会雑誌 40 巻 1 号 Page248-251(2019.08)
6. 中足骨癒合症に伴う両小趾の短縮と変形に対して仮骨延長法で治療を行った 1 例

米田 梓, 藤井 宏真, 前川 尚宜, 田中 康仁. 日本創外固定・骨延長学会
雑誌 30 卷 Page37-40(2019.03)

7. 脳性麻痺児の膝蓋骨の fragmentation に対して経皮的骨接合術を行った 1
例

米田 梓, 奥村 元昭, 佐本 憲宏, 藤井 宏真, 田中 康仁. 日本小児整形外
科学会雑誌 27 卷 1 号 Page42-45(2018.09)

8. 小児の距踵骨癒合症に対する鏡視下癒合部切除術

米田 梓, 佐本 憲宏, 田中 康仁. 日本小児整形外科学会雑誌 26 卷 1 号
Page84-87(2017.09)

9. Glomus Tumor in the Tarsal Tunnel: A Case Report

Yoneda A, Sugimoto K, Tsukada N, Okamura K, Isomoto S, Samoto N, Tanaka
Y. J Foot Ankle Surg. 2017 Jul-Aug;56(4):865-867

10. 陳旧性足関節外側靭帯損傷に対する靭帯修復術 まずは repair を試みる
べきである

磯本 慎二, 杉本 和也, 佐本 憲宏, 米田 梓, 塚田 直紀, 田中 康仁. 日
本整形外科スポーツ医学会雑誌 37 卷 2 号 Page134-136(2017.05)

11. Osteochondral lesion of the tibial plafond treated with a retrograde
osteochondral autograft: a report of two cases

Okamura K, Sugimoto K, Isomoto S, Samoto N, Yoneda A, Tsukada N, Tanaka
Y. Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2017 Jan 17;8:8-12

12. 踵舟状骨癒合症に踵骨前方突起骨折を合併した 1 例

米田 梓, 佐本憲宏, 田中康仁. 日本小児整形外科学会雑誌 25 卷 2 号

Page222-225(2016.12)

13. Freiberg 病に対して自家骨軟骨移植術を施行した 2 例

米田 梓, 磯本 慎二, 中本 佑輔, 佐本 憲宏, 杉本 和也, 田中 康仁. 中

部日本整形外科災害外科学会雑誌 58 卷 2 号 Page305-306(2015.03)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに運動器再建医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年12月14日

学位審査委員長

発達・成育医学

教授 野上 恵嗣

学位審査委員

運動器再建医学

教授 朴木 寛弥

学位審査委員(指導教員)

運動器再建医学

教授 田中 康仁